2012年2月28日

語り継ぎの研究

阪神・淡路大震災記念
人と未来防災センター
河 田 恵 昭

何を語り継ぐのか

- 災害現場で得られた教訓
- 災害対応で得られた教訓
- 自然災害の発生の特徴
- 危機管理の手法
- 将来の予測　など

もっとも伝えなければならないことは「いのちの尊さ」であり「生きることの大切さ」である

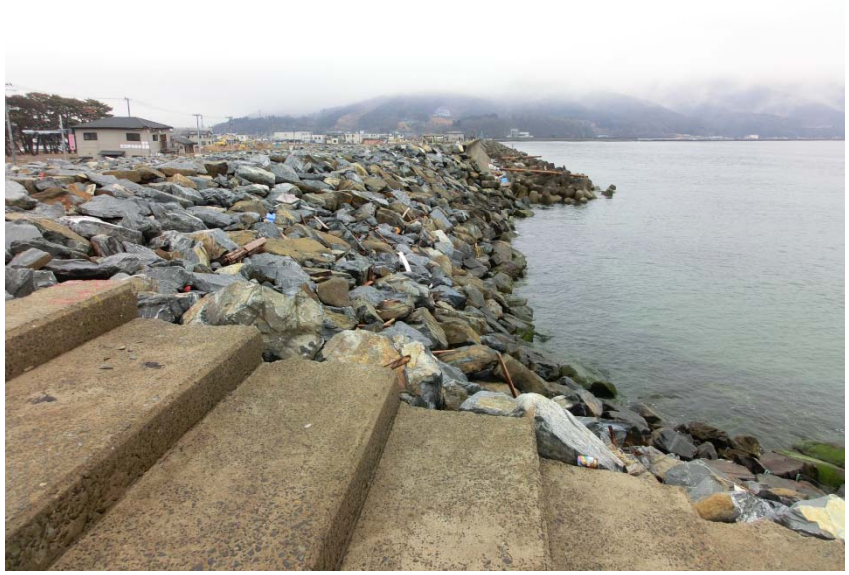
津波の高さと死亡率
松原町
535人
37.57%
79人
26.37%
仲町
294人
29.25%
28人
18.6%
弁天町
428人
34.35%
33人
11.56%
浜町
124人
38.71%
9人
14.58%
閖上
5424人
27.12%
693人
25.29%
地名
総人口
65歳以上の割合
死者総数
65歳以上死亡率
桜木
2938人
19.54%
13人
1.57%
江名
3239人
33.37%
3人
0.19%
植田町
4969人
30.01%
2人
0.07%
高橋
5137人
18.59%
3人
0.21%
錦町
10295人
27.02%
1人
0.04%
小名浜
40365人
24.31%
4人
0.02%
G3: 1000-1999
G4: 2000-2999
G5: 3000-3999
G6: 4000-4999
G7: 5000-5999
G8: 6000-6999
G9: 7000-7999
100
10
1
0.1
.01
1
10

死亡率

津波の高さ　（m）

津波の高さと死亡率
死亡率
津波の高さ　（m）
松原町
535人
37.57%
79人
26.37%
仲町
294人
29.25%
28人
18.6%
弁天町
428人
34.35%
33人
11.56%
浜町
124人
38.71%
9人
14.58%
閖上
5424人
27.12%
693人
25.29%
地名
総人口
65歳以上の割合
死者総数
65歳以上死亡率
桜木
2938人
19.54%
13人
1.57%
江名
3239人
33.37%
3人
0.19%
植田町
4969人
30.01%
2人
0.07%
錦町
10295人
27.02%
2人
0.04%
小名浜
40365人
24.31%
4人
0.02%
高橋
5137人
18.59%
3人
0.21%
G3: 1000-1999
G4: 2000-2999
G5: 3000-3999
G6: 4000-4999
G7: 5000-5999
G8: 6000-6999
G9: 7000-7999

渡波幼稚園



高い死亡率が語ること

- 石巻市（死者・行方不明：3,777人）
  松原地区：93人死亡（地区住民535人）
- 家屋外死者6人
- 女性の死者62人、男性の死者31人
- 年齢別内訳：
  80歳台32人、70歳台20人、60歳台16人
- 独居老人：26人

なぜこのように高い死亡率？

- これまで、津波被災の歴史がない。
- 住宅地は松林を伐採して造成した（住民の大半は、ほかの地区から転居）。
- 避難所の小学校まで800mある。
- 一番、海岸に近い幼稚園は犠牲者はゼロだった。

「芯」が不在の安全教育

- 防災教育で教えなければならないことは「いのちの尊さ」である。しかし、How toモノになっている。
- 交通安全教育の形骸化は目を覆うばかりである（死者は1970年代の1/4、しかし負傷後後遺症のある人は7万人で増加中）。交通モラルの低下が顕著（プロドライバーの法規無視）

どこで語り継ぐのか

- 専用の施設を建設するのか。
- 多くの課題（どこに置くのか、どの程度の機能をもたせるのか、誰が運営するのか、運営経費はどう賄うのか）
- NPOがそのようなことをできるのか？
- 岩手、宮城、福島で連携できるのか？

東日本震災アーカイブズ

- 国立国会図書館でアーカイブズのコンテンツ収集を実施し、予算は27億円を確保
- 経済産業省、文部科学省、国立国会図書館の要求を一本化
- 博物館の建設は民俗学の分野が要求
- 東北大学もアーカイブズを構築中
- （**この大学は意思決定過程がおかしい!!!**）

東日本大震災の教訓

- 『日頃やっていることしかできない』『日頃やっていないことは失敗する』----阪神・淡路大震災と共通
- 『日常防災』の重要性が改めて認識された。
- 毎日の生活の送り方が、災害が起こった途端、問題になる。

防災体制の基本

- 自分の命は自分で守る.　（自助）
- まちの安全はみんなで守る.　（共助）
- 自助、共助で出来ないことをやる.　（公助）

パートナーシップ

自助：共助：公助=7：2：1

たとえば、大阪で起こる災害

- 活断層地震（上町断層帯地震）
- プレート境界地震（南海地震）
- 津波はん濫災害
- 高潮はん濫災害、暴風雨災害
- 広域豪雨災害（淀川のはん濫）
- ゲリラ豪雨災害（夏期）
- 土砂災害

「スーパー室戸台風」直撃 試算

大阪・神戸220平方キロ浸水

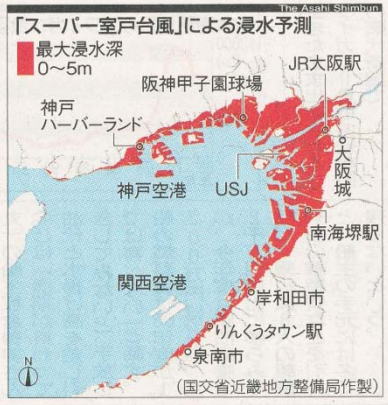
国交省

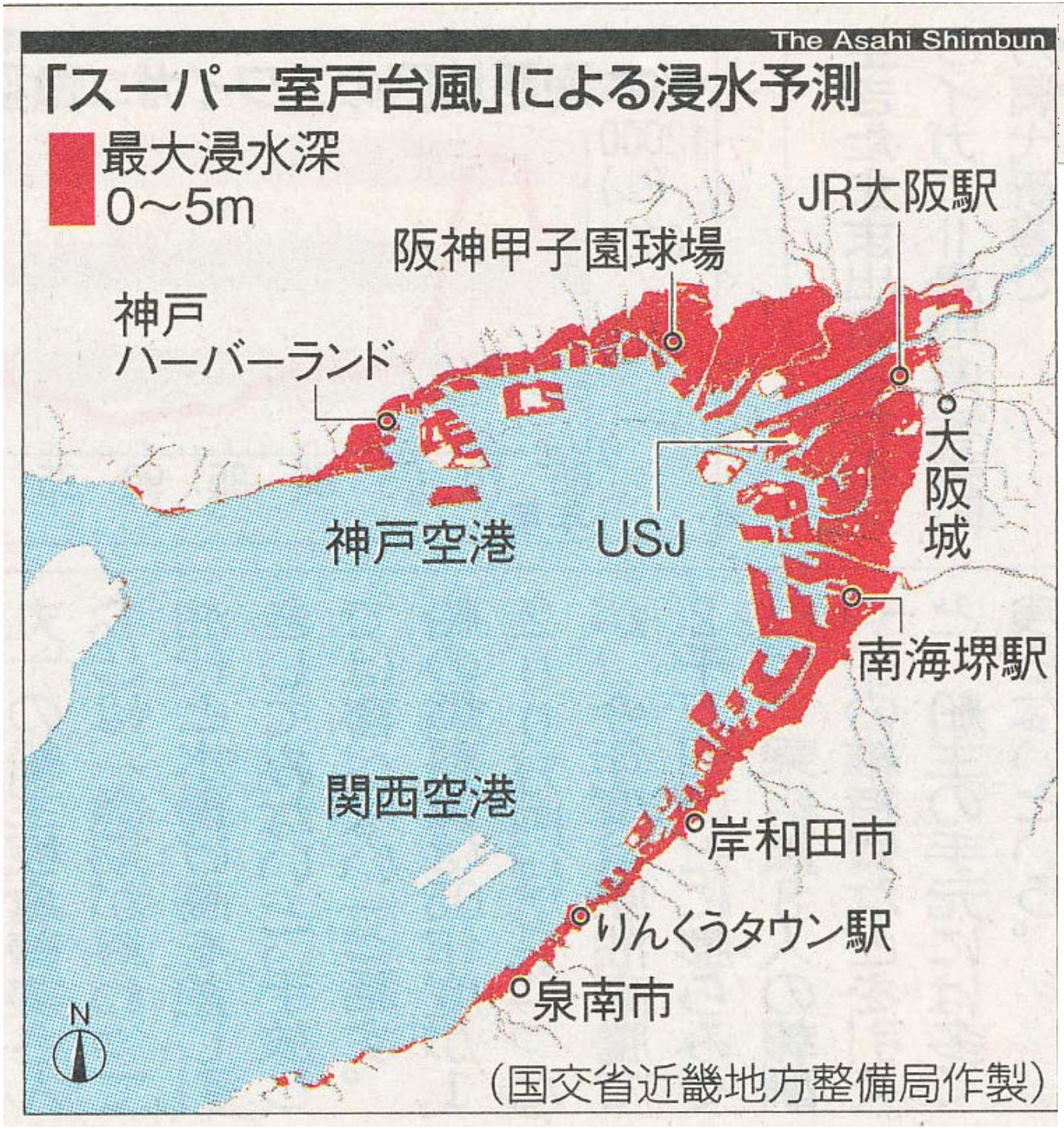
国土交通省近畿地方整備局は13日、室戸台風を上回る規模の「スーパー室戸台風」が大阪湾を直撃した場合の高潮の被害想定を発表した。最悪の場合、大阪平野を中心に神戸市から大阪府の南端

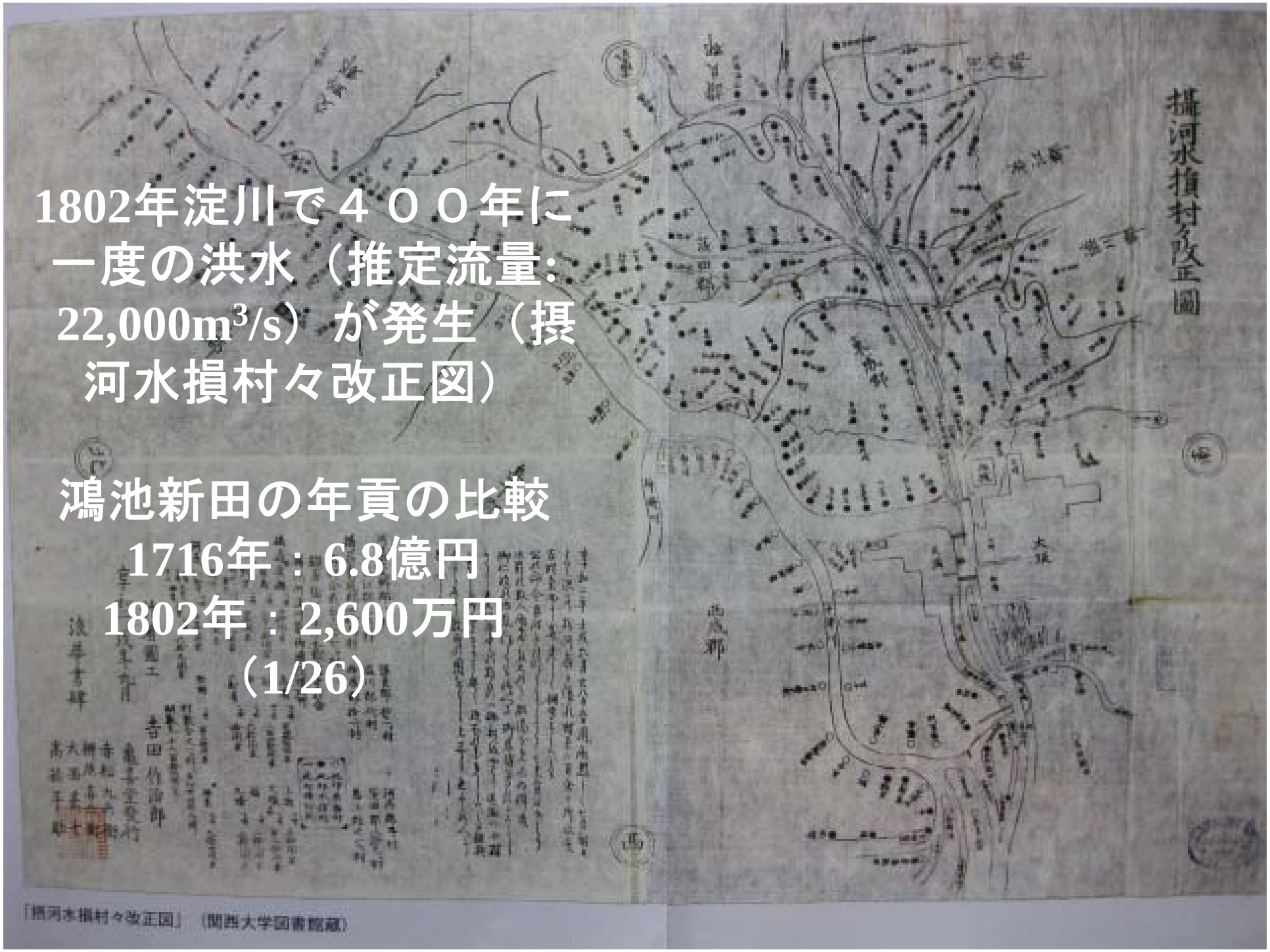
圧が900ヘクパスカル）を保ったまま、四国に上陸。大阪湾の潮位が最も高くなる進路を取り、さらに、各地で堤防の損壊が起きるなどのトラブルも想定した。

被害想定によると、高潮は最大で4メートルの高さに達し、伊勢湾台風（59年）クラスの高潮に備えた大阪港の堤防を約1メートルも越える。この結果、浸水は大阪湾沿岸の64平方キロに広がるゼロメートル地帯の全域に拡大。神戸港や阪南港でも堤防を越え、全体の浸水範囲は、2万1千人以上の死傷者を出したジェーン台風（50年）を上回る220平方キロに及ぶとしている。

最悪の場合、地下街が広がるJR大阪駅付近（大阪市北区）は0・7メートル▽南海堺駅付近（堺市）3・3メートル▽りんくうタウン駅付近（大阪府泉佐野市）2メートル▽阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）3・4メートル▽神戸ハーバーランド（神戸市中央区）1・6メートル――が浸水する可能性があるという。



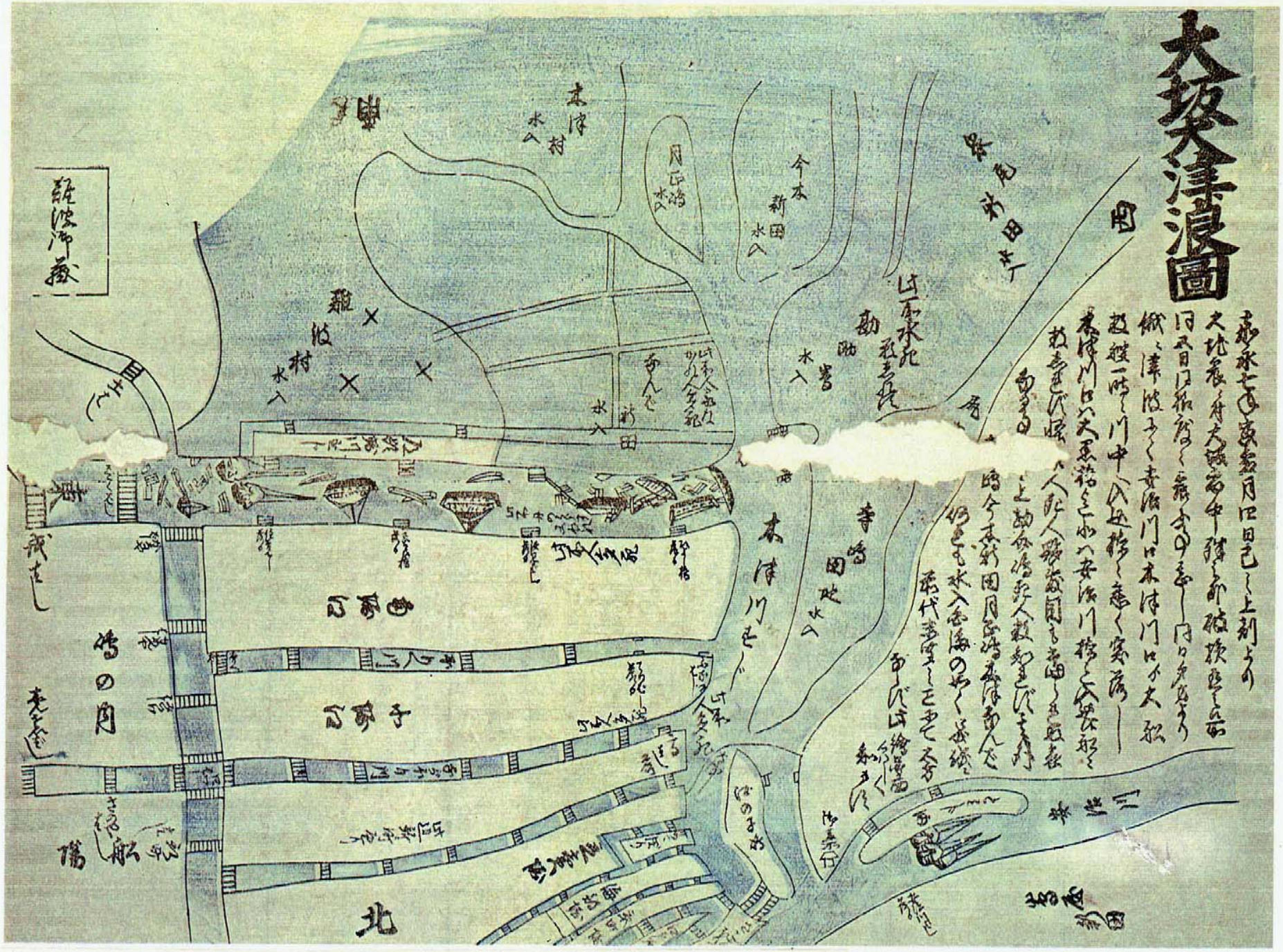




1802年淀川で４００年に一度の洪水（推定流量: 22,000m^3/s）が発生（摂河水損村々改正図）

鴻池新田の年貢の比較
1716年：6.8億円
1802年：2,600万円
（1/26）

「摂河水損村々改正図」（関西大学図書館蔵）


大坂大津浪圖
難波御藏
北

2009年台風18号の教訓

- 強風で怪我をした人が多い。
- 死者5人、重傷24人、軽傷113人 （不注意！）
- 風速25m/sでは瞬間最大38m/s　100mの高層では、32m/sで瞬間最大48m/sになる。
- 風速20m/sでは歩行困難、高齢者は転倒する恐れがある。
- 木の枝が折れ、雨で地盤が緩んでいると木が倒れやすい。
- トタン屋根、瓦、看板、自転車等が飛んでくる。

共助努力によって高齢の犠牲者を減らす

- 2004年新潟県中越地震　44/68=66%
- 2004年風水害　120/200=60%
- 2005年台風14号　20/29=69%
- 2006年平成18年豪雪　98/152=65%
- 2011年平成23年豪雪　83/127=65%
- 2011年東日本大震災　8,106/14,553=56%
- 2012年平成24年豪雪　70/109=64%

従来から、災害時の高齢者の問題は本人の問題であるとの認識があった。これでは犠牲者は増える一方である。現在は、地域の問題となっている。

じしんにそなえる（地震に備える）

- 「いつでも、どこでも、だれでも」じしんにあう。
  「何時でも、何処でも、誰でも」地震に遭う。
- じしんでゆれてもあわてない。
  地震で揺れてもあわてない。
- にかいのほうがあんぜんだ。
  ２階の方が安全だ。
- じしんのとき、ひとりで、かってにこうどうしない。
  地震の時、一人で、勝手に行動しない。

こうずいにそなえる
（洪水に備える）

- おおあめがふると、ちいさなかわはすぐにあふれる。
  大雨が降ると、小さな川はすぐにあふれる。
- おおあめがふりつづけるとよるはそとがあぶない。
  大雨が降り続けると、夜は外が危ない。
- ひらやのいえより、にかいだてのほうがあんぜんだ。
  平屋の家より、２階建ての方が安全だ。
- おおあめけいほうがでているとき、くるまをうんてんしない。
  大雨警報が出ている時、車を運転しない。

どしゃさいがいにそなえる（土砂災害に備える）

- おおあめがふりつづいているときは、にかいにあがる。
  大雨が降り続いているときは、２階に上がる。
- ひなんするときは、しんせきのいえににげない。
  避難する時は、親せきの家に逃げない。
- おおあめがやんでも、はんにちはきけんだ。
  大雨が止んでも、半日は危険だ。
- きけんじょうほうがでたら、にかいにあがる。
  危険情報が出たら、２階に上がる。

つなみとたかしおにそなえる（津波と高潮に備える）

- うみのちかくにすんでいるひとは、じしんがいっぷんいじょうつづいたら、はやくたかだいへひなんする。
  海の近くに住んでいる人は、地震が１分以上続いたら、早く高台へ避難する。
- じかんがあれば、さらにあんぜんなばしょににげる。
  時間があればさらに安全な場所に逃げる。

- たかしおはこうずいよりこわい。
  高潮は洪水より怖い。
- たかしおのひなんかんこくがでたらすぐにひなんする。
  高潮の避難勧告が出たらすぐに避難する。

しっているとやくにたつちしき（知っていると役に立つ知識）

- たつまきのときは、いえのなかでじっとしていよう。
  竜巻のときは、家の中でじっとしていよう。
- やまでかみなりがなったら、かわのみずがふえる。
  山で雷が鳴ったら川の水が増える。
- ゆうだちがきたら、はしのしたであまやどりしない。
  夕立が来たら、橋の下で雨宿りしない。
- たいふうのつよいかぜがふいているときは、そとにでない。
  台風の強い風が吹いているときは、外に出ない。

警句：

大きな危機は、必ず
周辺部から中心部に向かって
裂け目を切り開いていく。